

青森と提携35周年祝い商品

函商高生ら共同開発 函館の式典で紹介

青森・函館ツインシティ提携35周年記念式典



ツインシティ提携35周年記念商品をPRする函館商業高の生徒たち（中本翔撮影）

函館市と青森市による青森・函館ツインシティ提携の35周年記念式典が17日、函館市内で開かれた。両市の行政・経済関

係者ら約90人が出席し、函館商業高と青森商業高の生徒が記念商品としてセブニーイレブン・ジャパン（東京）とそれぞれ

共同開発したおにぎりやスイーツが披露された。

ツインシティ推進協議会会長の大泉潤函館市長が「両市が手を携えて一つの圏域として地域を活性化し、次の世代に交流を継承させたい」とあいさつ。函館商業高生6人は半年かけて商品化したサクラマスのバターしゅうゆおにぎりなどを紹介し「地産地消や、生産者が喜ぶことを大切にしながら考えた」と語った。

試食した西秀記青森市長は「サクラマスをしつかり味わえる」と太鼓判を押し、青森商業高生はリンゴのシフォンケーキなどをPRした。各商品は19日～12月2日に道南と青森県内のセブニーイレブンで販売される。

両市は青函トンネル開業を機に双子のように親しく交流しようと1989年にツインシティ提携を結んだ。教育やスポーツ、産業など各分野で交流事業が行われている。

（佐藤陽介）